



花乱れ咲く柏陽

恵庭市立柏陽中学校 校長室から

令和7年3月24日（金）21号

校長 前田 真志

<令和6年度への御支援・御協力に感謝申し上げます。>

今年度を終えるにあたり、一言御挨拶させていただきます。

今年度の生徒会テーマである「アルバム」が、本日の修了式をもって閉じることになりました。この一年間は、修学旅行、参観日、体育祭、宿泊学習、中体連、柏陽祭、HFD（柏陽フリーデー）三者懇談など、多岐に渡る活動があり、その時その時に、保護者・地域の皆様には、御支援・御協力をいただきました。ありがとうございました。多くの思い出が「アルバム」の中に、笑顔とともに刻まれたことをうれしく思います。

柏陽中で育った生徒が、どこにいても「さすがしっかりしている」と言われ、誰もが他の人のために真摯に力を注げる人間として評価されることを願っています。これからも、恵庭の地域やその先に成長する他の場所でも、誰からも信頼を受ける人物であってほしいと願ってやみません。

今年度の重点教育目標を「夢をもち 地域にねぎし 自律する生徒」と掲げました。これは、保護者の皆様と同様の気持ちで掲げたものです。お子様が生まれ、はいはいから、立ってよちよち歩けるようになった時には「這えば立て、立てば歩めの親心」（小林一茶）の句のように、成長を願っておられたことは言うまでもないと思います。私たち教職員も、小学校時代を経て、高校に進学したり働いたりできる状態になれるよう、「自律」を願ったところです。家族のために、社会のために羽ばたいてほしいという願いは、保護者の皆様と変わりません。

柏陽中教職員一同、最善を求めて教育活動を行ってきましたが、まだまだ十分ではない点もあったかもしれません。そのような時に、保護者や地域の皆様からの背中を押していただいたことが、子どもたちの成長につながったのだと感じております。ありがとうございました。

令和7年度も、本校に変わらぬ御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます、最終号の御挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

<手書き通信24号最終号>

修了式で離任前最後の話を生徒にしました。

今年度始業式で話をした「君たちはどう生きるか」で描かれていた「君は、何も生産していないけど、大きなものを毎日生み出している。それは何だろうか？」の答です。

皆さん何かわかりますか。それは「成長」なのです。小中学生は、保護者の方と違って職業に従事しお金を得ることはできませんが、その大人になるための準備として、日々成長していくことが立派な務めなのだ、ということです。

タイムリーにならない時もあった通信でしたが、生徒が自分を振り返り成長していく（自律）きっかけになればと思っておりました。

生徒をはじめ保護者、地域の皆様には3年間たいへんお世話になりました。ありがとうございました。新年度の皆様の御健勝、御多幸をお祈り申し上げます。

